

## 生涯学習市民開放プログラムの受講生を担当して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田, 陽一郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10098/7941">http://hdl.handle.net/10098/7941</a>

教員の声

## 生涯学習市民開放プログラムの 受講生を担当して

工学研究科 知能システム工学専攻 前田 陽一郎

私は知能システム工学科の「基礎メカトロニクス」という2年生前期の科目で1名の市民開放プログラムの受講生を担当しております。比較的高齢（62歳）の方で、第二の職場に勤めておられ、自由時間が増えたためにご自身の教養を高めるために受講されたそうです。この科目を受講された理由は、ご自身もこれまで仕事でメカトロニクスを扱って来られたようですが、今までのような仕組みで動作をするのかを知らないまま来てしまったため、この機会に改めて勉強してみようと思われたそうです。

授業では毎回一番前の席に座り、教室内の誰よりも熱心に授業に聞き入っておられます。ノートをきちんと取るまじめな姿は学生にとっていい刺激になっていると思います。本講義では前半で初等材料力学、後半でメカトロニクスの講義をやっているのですが、この受講生の方は昔、材料力学の講義を受けられたそうで、授業をやる側にとって身引き締まる思いで講義をさせていただいています。私は公開講座などもここ5年くらい担当させていただいており、学外の福井ライフアカデミー講座などでも講師を何度かしたことがありますが、このような企画にはほとんどが第二の人生で十分な余暇をお持ちの年配の方々の受講が非常に多いようです。このような方々の受講に対する熱心さには目を見張るものがあり、教師の側も本来の意味での教育の楽しさを実感することができます。大学でもこのような熱心な受講生ばかりだといいのになあ～、と心から思ってしまう。

あまり学生批判はしたくはないのですが、今回の執筆依頼を受け、昔の私自身の経験で思い出したことがあります。以前、カナダのUBC（ブリティッシュコロンビア大学）に客員研究員として一年間滞在したことがあるのですが、カナダの大学の授業には大変驚かされた経験があります。日本のように、授業中に私語をしたり、内職をしたり、寝ていたりする学生は誰一人もなく、学生は全員、先生の講義を食い入るように聞いています。彼らは「高額のお金を払って大学に来ているのだから、必ず何かを得てやろう」という考え方で、日本の大学のように学生はお客様で、「単位をもらうために授業に義務的に出席している」という意識とは全く正反対です。カナダの大学の授業では、学生は寝て

いるどころか、先生が説明したことがわからなければ、その場で講義を止めてでも学生から質問したり、先生が間違った説明をしたりすると学生がそれを厳しく指摘したりします。このようなピリピリと張りつめた雰囲気こそが本来授業には必要で、今回、市民開放プログラムの熱心な受講生の受講態度を見て、カナダの学生をつい思い出してしまいました。

話が脱線しましたが、今回の受講生の方に福井大学の市民開放プログラムについての率直な意見をインタビューでお聞きしましたので、それについても触れておきたいと思います。本受講生は福井県立大学など他大学の開放講義も受けておられ、福井大学の開放講義についても客観的なご意見をいただくことができました。福井大学の場合、受講に際して講義についての情報が少なすぎるため、本来受けたい講義を選択するのが難しいという意見をもっておられました。これを聞いて、私もさっそく福井大学の生涯学習市民開放プログラムの募集要項を見てみましたが、確かに各科目の説明がそれぞれ4～6程度あるだけで、それ以上の情報はありません。もう少し講義内容についての詳しい情報があれば、もっと自分の本当に受けたい授業をうまく選べるのではないかと本人も漏らしておられました。シラバスまではいかなくても、それに近いものを受講生に公開することも一つの方法かもしれません。また、開放している授業の先生は最初の2時間くらいの履修登録期間の講義の中で、今後の講義の詳しい内容を説明するなどの工夫をしてもいいと思います。このような地道な努力を行うことが、結果的には地域に根付いた開放講義になるのではないかと感じたいです。

最後に、私自身の感想ですが、このような非常に熱心な受講生を受け入れることは、地域貢献のみならず、自らの授業の雰囲気をも高める効果としての貢献も大きいと思います。私は共通教育科目の授業も担当していますが、自学科の学生よりも他学科の学生のほうが熱心に授業を聞いてくれるという経験をお持ちの先生は多いと思います。でも学外からの受講生はもっと熱心に授業を受講してくれますので、他の先生がたもどどん受け入れを検討されてもよいのではないのでしょうか。